

天正十年本能寺の変

# 天変が語る歴史秘話 本能寺の変

京都情報大学院大学

作花一志

## 天正十年の天変

本能寺の変は日本史で重要な事件で、今年だけでなく 1～2 年置きに NHK 大河ドラマで登場しますね。この変の起こった六月二日という日付は実は和暦で、西暦（ユリウス暦）では 6 月 21 日です。だから和年号で「天正十年六月二日」あるいは西暦で「1582 年 6 月 21 日」と言うべきで 1582 年 6 月 2 日という混合表記は改めるべきです。

この年の前半は戦乱だけでなくオーロラ・彗星・日食と天変も目白押しです。わが国でオーロラの記録は意外に古く推古（日本書紀）時代で、1204 年（藤原定家の明月記）、1770 年の出現[1]が有名です。ただしカナダやフィンランドで見られるような黄色や緑のカーテンではなく山の稜線あたりが赤く染まる現象で「赤氣」と記されています。今年は北海道東北長野北陸山陰に現れましたね。

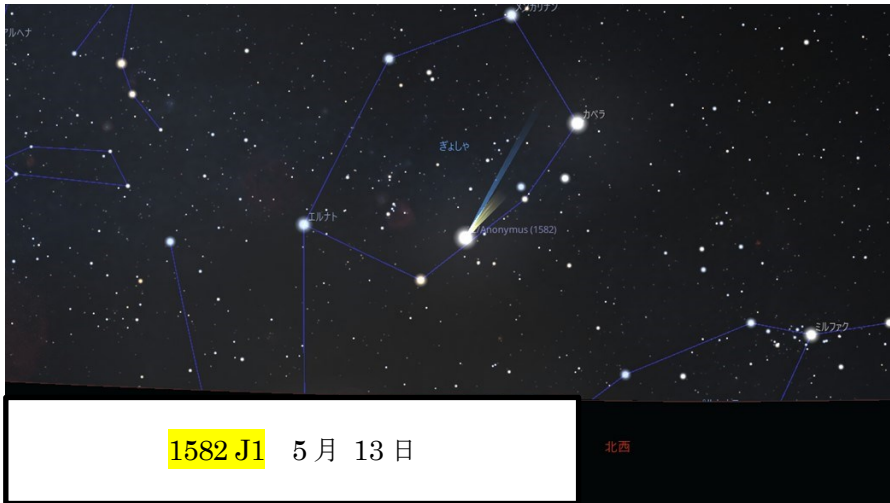
2 月に信長は 6 万の大軍を率いて武田攻めを開始しますがオーロラ出現は出陣時前後でしょう。4 月 3 日に天目山の戦いで武田勝頼を破ります。彗星が出現するのは家康を安土に迎え豪華な武田戦勝祝いをしている時でした。その時光秀は大恥をかかされたことが謀反のきっかけといわれていますが・・・。

| 和暦     | ユリウス暦    | 戦乱    | 天変     |
|--------|----------|-------|--------|
| 二月十四日  | 3 月 8 日  |       | オーロラ出現 |
| 三月十一日  | 4 月 3 日  | 武田氏滅亡 |        |
| 四月二十一日 | 5 月 11 日 |       | 彗星出現   |
| 六月一日   | 6 月 20 日 |       | 日食     |
| 六月二日   | 6 月 21 日 | 本能寺の変 |        |

彗星出現は興福寺「多門院日記」やポルトガルから来ていた宣教師フロイスの「日本史」に記されています。実はこの時刻は日没後まだ薄明です、月は下弦で現れていません。彗星はぎょしゃ座の 5 角形の中に見えます。固有名はついていませんが 1582J1 と呼ばれています。軌道は黄道面と

ほぼ垂直で再び戻っては来ない、これは大彗星ではよく見られることです。]2]

これより 15 年前信長はもっと巨大な彗星を見ています。しかも



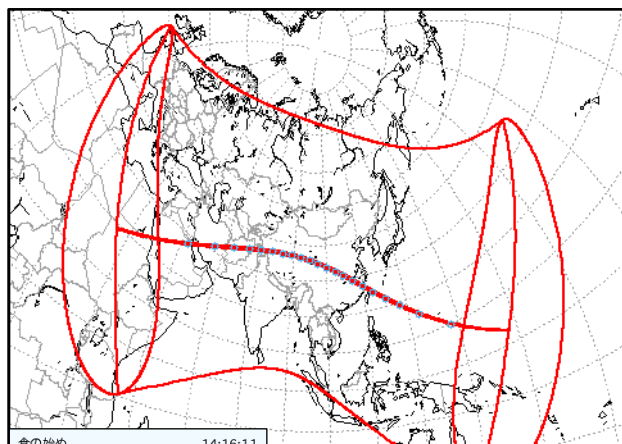
1577V1 と V2 のダブル出現です。この年、松永弾正が信長に反旗を翻し、信貴山で大爆死したのでこの彗星は弾正星と呼ばれています。この大彗星も二度と現れない非周期彗星です。

今年の 10 月には紫金・アトラス彗星が来ますがどんな風に見えるやら？



## 本能寺の変の前日の日食

旧暦二日といえば前日は一日・・・新月です。明智軍団は月のない真闇の中を丹波亀山から京に入ったのです。ひょっとして？そう実は日食が起こっています。その皆既ゾーンは右図 [5] のようにアラビア半島～イ



ンド～中国南部～太平洋を走り,石垣島なら皆既が見られたはずですが,京都では約6割欠ける部分食。15時半ころ見たはずですが,実は雨（梅雨のさなかですから）だったそうです。ところが『天正十年



|     | 開始時                | 最大時                 | 終了時                 |
|-----|--------------------|---------------------|---------------------|
| NAO | 14:16              | 15:27               | 16:31               |
| 宣明暦 | 午 7 刻 7 分<br>12:40 | 未 5 刻 75 分<br>14:25 | 申 4 刻 59 分<br>16:10 |

具注暦』には,ちゃんとこの日の日食が予告されていました[3][4]。日蝕八分と記され。日食の開始時,最大時,終了時について国立天文台暦計算室[5]と宣明暦[4]の計算結果を比べてみると,以外と差異は小さいのがわかります。宣明暦は当時ヨーロッパで使われていたユリウス暦よりも正確でした。この暦は朝廷の陰陽師が作ったもので,これを見て日食を知っていた公家もいたでしょう。そして中国出陣を延期するよう信長にアドバイスした公家もいたでしょう。

信長が京都に来たのは明智光秀を従えて,毛利攻めに出発するためだったのです。しかし迷信嫌いな信長のこと,たとえ日食を見ても他人の忠告など聞かなかったでしょうね。それどころか天変が多いこの年に,彼はあ

えて出兵して戦いに勝利しています。信長がこれらの天変に無関心なの  
にルイスフロイスは驚いているそうです。

本能寺の変の直前には織田の主な武将は多方面で戦闘を繰り広げており都の近くにいたのは明智光秀だけです。当時の本能寺は四条堀川、現在の堀川高校あたりにあり、広大な敷地に多数の塔頭・大伽藍を有していました。上杉・毛利・長宗我部を徹底的に叩き天下統一は目前と見えた信長でしたがあっけない最期。信長は炎の中で自害して明智軍は遺体を捜せなかったといわれていますが、実は阿弥陀寺の清玉上人がいち早く遺骨を運び出して埋葬したそうです。実際、現在阿弥陀寺（京都市上京区寺町今出川上ル）には信長・信忠父子や森蘭丸兄弟の墓があり、本堂には木像もあります。



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Amidaji\\_Kamigyo-ku\\_017.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Amidaji_Kamigyo-ku_017.jpg)

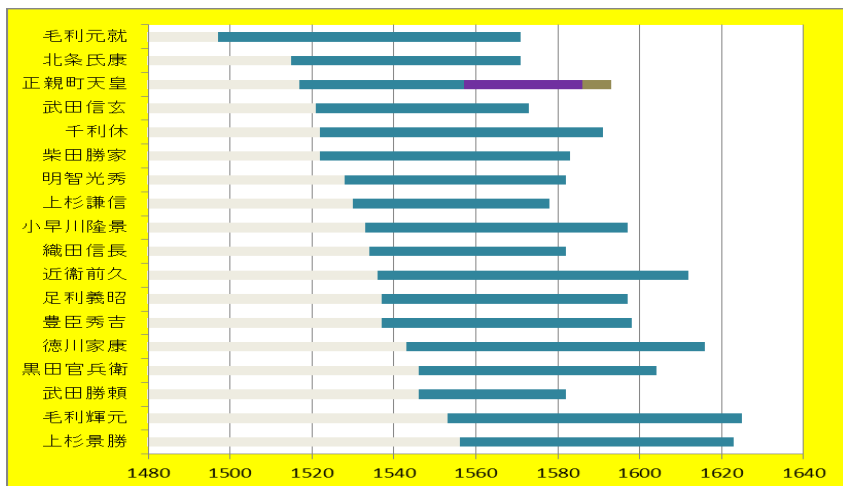
その後、織田家では羽柴秀吉が柴田勝家を倒して跡目争いに勝つことは周知のとおりですが、その際に徳川家康はかつての武田領と今川領を併合して、わずか半年後には上杉・北条を上回るほどの大大名になっています。家康の本音はこれらの土地を併呑することだったようです。本能寺

の変の原因は明智光秀の個人的な怨念・野望によるものとされて、真相は闇のままですが、それは勝者（秀吉や家康）の勝手な論理、裏切り下克上は日常茶飯事の戦国の世です。黒幕候補としてこの2人をはじめ多数の名前が挙がっていますが、それよりもっとアヤシイ人々がいて、そこになんと暦が関係してくるのです。

## 改暦をめぐる

本能寺の変より9年前、1573年に信長は自分が担ぎ出した足利義昭を室町将軍から追放して、ここに室町幕府は実質的に終わるのですが（実は義昭は征夷大將軍を辞任もせず罷免もされていません）、その後朝廷に強要して元龜から天正へ元号を変えさせています。これは改元の権限を奪うもので、朝廷へのものすごい干渉です。そして天正十年、武田へ出兵の前に公の京暦を三嶋暦（当時関東東海で使われていた）に変えることを要求したそうです。具体的な変更は閏月の置き方だけで、京暦では天正十一年正月の次に閏正月を置いているが、三嶋暦では天正十年十二月の次に閏十二月を入れるというものです。旧暦で閏月の置き方は非常に複雑な計算を要し、どちらが正確かはわかりません。太陽太陰暦では後述のように19年に7回ほど閏月を置いています。その閏月が12月か翌年の1月かで朝廷や寺社の諸々の行事日程は変わります。京暦とは平安時代から使われている「宣明暦」ですでに処々にほころびが現れていますが、暦計算は非常に複雑な計算を含み改暦は先送りされてきました。たかが暦で？いや暦を作り民に分つことは天子の特権ですから、彼の要求は公家衆からするととんでもない越権行為、もしそうなれば陰陽寮の役人は当然全員罷免、その次に来るのは朝廷人事への口出し、ひいては朝廷乗っ取りです。左大臣右大臣も藤原氏ではなく信長の息のかかった者になり、そしてついには天皇の地位にもおよびかねない。正親町天皇とは数年前から退位をめぐる今や微妙な関係。しかも信長はすべての朝廷の役職を辞任して、関白・太政大臣・征夷大將軍どれでも好きなものを選ぶようにという甘い(?)

誘いにも無視しています。すでに武田を滅ぼし毛利へ出兵する前日の六



月一日、信長は宿泊地である本能寺で大茶会を開きました。近衛・二条をはじめ主な公家すべて、そして弱冠 22 歳ながら陰陽頭・天文博士である**土御門久脩**（つちみかど ひさなが：1560・1625）も参加しています。そこでも信長はしつこく三嶋暦採用を迫ります。特に久脩には報償まで用意して念を押したそうです。

もうやるしかない、そこで極秘のうちにできた信長包囲策が動きます。実行は光秀にやらせ、その後は秀吉か家康に取り代えればいい、それとも義昭を返り咲きさせるか、謙信のいない上杉や、元就のいない毛利では頼りないし・・・と企画立案したのは誰でしょうか？太政大臣を辞任したばかりの**近衛前久**（このえ さきひさ：1536-1612）をはじめアヤシイ公家はたくさんいます。たとえ失敗しても後は知らん顔というのは源平時代からの得意技です。

ともあれ結果的に改暦は回避され、彼等の思惑はうまくいきました。家柄のない秀吉が莫大な金銀を払って高位高官を買うのを推奨し、彼らは安泰でした。上杉・毛利・長宗我部・比叡山・本願寺だけでなく危ういところで助かり狂喜した勢力は多数ありました。

以上は齊藤国治著『宇宙からのメッセージ』[6] に載っている内容を筆者が膨らませたものです。

## もしも

本能寺の変は光秀の単独行動ではなく共謀者・黒幕がいるとしたら秀吉？家康？義昭？比叡山？本願寺？イエズス会？朝廷？それともみんなグル？

もしも本能寺の変が失敗に終わり、信長が生き延びていたら・・・なんて空想は無意味と知りつつ、

- ・ 朝廷に入り関白、太政大臣に任じられるとか、
- ・ 征夷大將軍に任じられて安土幕府を開くとか、
- ・ 中国（明）から日本国王に任じられるとか

なんてことは考えられないでしょう。むしろ全く新しい独裁者にふさわしい称号を自分で考案して君臨したことでしょう。楽市楽座が全国的に広がって商工業が盛んになり、暦は三嶋暦が採用され、いやそれどころか改暦は一気に宣教師ルイスフロイスの提案に沿って西暦導入となったかも知れません、史実より 300 年早く。そしてわが国のヨーロッパへの窓口はオランダではなくポルトガルが担い、天文学・航海術などを含む新しい科学技術も紹介されていたかもしれません。人物往来は盛んになり、天正少年使節よりも数倍大規模な通商使節・留学生が派遣されたでしょう。その一方でスペイン・ポルトガルの植民地政策の餌食になったのでは？という危惧もありますが、当時わが国では西欧のどの国より金銀をたくさん発掘所有しており、また伝来から間もないながら鉄砲をたくさん製造していたそうですから、信長はそれらを十分に活用して西欧諸国と比肩対抗できたことでしょう。宣教師も驚いた安土城はヨーロッパでも評判になり、近江安土はわが国の中心の大都市として栄えたことでしょう。

土御門久脩は秀吉の時代も生き延びますが、秀吉の晩年に多数の陰陽師が尾張に追放されるという事件が起きます。ところが関が原の戦いの直後、ちゃっかり都に復帰して、家康から梅小路（水族館あたり）に広大な土

地をもらい、そこは現在梅林寺・円光寺となっています。さらに徳川家康・秀忠・家光の將軍宣下式を二条城で司るという大役をこなし最後には従三位まで昇進しています。彼の子孫は明治初まで陰陽頭を務めます。どうみてもタダのお公家さん陰陽師ではない、戦国の世を逞しく生き抜いたしたたか者であることはさすが安倍晴明の直系子孫ですね。でも天体観測は行っていたのかは不明です。

彼の生存中には大彗星出現(1577年 1582年)、オーロラ出現(1582年)など天変が多く、注目すべきは2回も超新星爆発が起きていることです。1572年(ティコ・ブラーエの超新星)にはまだ12歳ですが1604年(ケプラーの超新星)には熟年に達し梅小路で安定した身分を保証されていました。観測の機会があったはずですが記録は見つかっていません。当時すでに日食は恐怖の対象ではなくなっていますが、彗星や客星はやはり不気味な天変で占いのネタにはなりえたはず、無関心だったとは思えません。まだどこかに彼の未公開の観測記録が眠っているのではないのでしょうか？

## 旧暦の閏年

ところで肝腎の置閏法はどうなったのでしょうか。

太陽暦では閏年の置き方は簡単で2月が1日増えるだけですが、太陽太陰暦では複雑な計算の末、まるまる1ヶ月増えます。それは月の満ち欠け(朔望)と季節の変わり(24節気)を両立させているからです。新月(朔)の日を一日(ついたち)とし次の朔になったら次の月に変わりますが、満月(望)の日が十五日になるとは限りません。中国やギリシャでは朔望周期が29.53日であることはすでに紀元前から知られていました。1年を大の月(30日)と小の月(29日)各々6回とすると $30 \times 6 + 29 \times 6 = 354$ 日になり約11日不足します。そのまま3年経過すると33日不足なので、そこで1ヶ月加えてその年は13ヶ月とします。しかしこれでも不十分で補正は約2.7年毎か2.8年毎が適正です。古代の暦学者(同時に占星術師)は小数というものは知らなかったけど19/7という

分数が最適値であることを発見しました。すなわち 19 年間に閏年を 7 回設置するのです、(メトンの周期：章 [7])。

一方、季節は 24 節気で知ることができます。1 年を 24 等分してそれぞれ季節にふさわしい名前がつけられました。春分から始まりほぼ 15 日ごとに清明、穀雨、立夏、小満、・・・立春、雨水、啓蟄と続きますが、その奇数番目を「中気」、偶数番目を「節気」といいます。中気は約 30 日ごとにめぐって来ますが、小の月は 29 日なのでは中気がないこともあります。そこで旧暦作成の規則が次のように決められました。

- ・ 新月の日を毎月の日とする。
- ・ 春分は二月、夏至は五月、秋分は八月、冬至は十一月に含まれる。
- ・ 24 節気の中気を含まない月は前の月を繰り返し、閏〇月と呼ぶ。

わが国は 1873 年にグレゴリオ暦を採用し旧暦の公的サポートはしていません。

この手法は宣明暦でも三嶋暦でも同じですが、もう一つ問題があります。それは進朔（しんさく）といわれる不可解な習慣で Wikipedia [8] によると宣明暦において採用された技法で、朔の到来がその日の 3/4 以上過ぎた後（18 時以後）になる場合には、朔日は翌日に先送して「翌日を新しい月の一日とする」というものです。両暦とも 1583 年 1 月 24 日が朔であることは変わりなくその前日までは天正十年十二月です。1 月 24 日から 2 月 21 日までの月には中気がなく閏月となります。すなわち天正十年に閏十二月が置かれることになります(三嶋暦)。ところが 2 月 22 日の朔の時刻は 18 時を過ぎている（**わずか 9 分ほどですが**）ので進朔を行うと朔が翌日に先送りされ、2 月 23 日からその次の朔である 3 月 24 日の前日までには 24 節気の中気がありません。3 月 24 日から始まる月には春分（3 月 25 日）を含むので二月となります。したがってその前の月は閏正月となります(宣明暦)。ああややこしい。なんと**改暦問題のネックは進朔の設置だった！**新年行事が 1 月も変わるのは公家だけでなく神社仏閣さらに京の商人にとっても大変だから変えたくなかった。東国の暦学者は進朔の技法を知らなかったのか、そのまま閏月を設

置した。朔に時刻が9分早かったらこの大乱は起こらなかったかもしれません。進朔が廃止されるのはこれより100年後の貞享改暦の時です。

| 天正十年十一年の旧暦 |    |       |     |        |
|------------|----|-------|-----|--------|
| 月日         | 京暦 |       | 三嶋暦 |        |
| 12月25日     | 朔  | 十二月一日 | 朔   | 十二月一日  |
| 1月23日      | 大寒 |       | 大寒  |        |
| 24日        | 朔  | 正月一日  | 朔   | 閏十二月一日 |
| 2月22日      |    |       | 朔   | 正月一日   |
|            | 雨水 |       | 雨水  |        |
| 23日        | 朔  | 閏正月一日 |     |        |
| 3月24日      | 朔  | 二月一日  | 朔   | 二月一日   |
| 25日        | 春分 |       | 春分  |        |

<http://www.wagoyomi.info/wagoyomi.html>

京暦では進朔を行っている  
 2/22の朔は翌日に進める

中気がない

この小文執筆にあたり竹迫 忍氏から貴重なアドバイスをいただきました。厚くお礼申し上げます。

## 参考文献

- [1] <https://www.nipr.ac.jp/info/notice/20170920.html>
- [2] [https://ssd.jpl.nasa.gov/tools/sbdb\\_lookup.html#/?sstr=C%2F1582%20J1](https://ssd.jpl.nasa.gov/tools/sbdb_lookup.html#/?sstr=C%2F1582%20J1)
- [3] <http://hosi.org:3000/>
- [4] [http://www.wagoyomi.info/senmyoureki\\_nissyoku\\_2.pdf](http://www.wagoyomi.info/senmyoureki_nissyoku_2.pdf)
- [5] <http://eco.mtk.nao.ac.jp/cgi-bin/koyomi/eclipsedb.cgi>
- [6] 斉藤国治著『宇宙からのメッセージ』雄山閣 1995
- [7] <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%96%8F%E6%9C%88>
- [8] <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%80%B2%E6%9C%94>



京暦を三嶋暦に変えよ

ジョヴァンニ・ニコロ作 (?)

さて皆さまのお考えは？

光秀単独（怨念 野心 正義感 四国救済）？

黒幕（秀吉 家康 義昭 朝廷 仏教界 イエズス会）

みんなグル？